

阿真集落の区長の呼び掛けで、志

年会ならぬ年会をやるので出席されたしとの案内状が届いた。開催の趣旨は「1000年・ミーム」を

迎えるに当たり、志をつむぐもの

が一堂に会し、お祝い式にておおいでのひのじんである。巡回の看板には

「温故知新」と書いてある。三十一、四十人の有志が集まっている。主催者の言によると初めての試みで急な呼び掛けにも拘わらず予想以上の集まりであると。

私の役割は、座間味村の千年の歴史を振り返り、将来に亘るタクシードの高鳴りを抑えつつ、概ねの内容で口火を切った。

本村は十四世紀半ばから十八世

代にかけての船頭を輩出し、豊かな地域と船頭を中心とした人が拳つて快適な集落を形成した。まだ今世紀初期には松田和三郎初代村長が鰐節の製造方法を沖縄全土に広め、ケラマ鰐として全国市場を賑わせたことはよく知られてることである。

「」我々が先達の偉業から学ぶことは、鰐節製造工程に発生する残渣を村民に等しく分配し、農・畜産業を盛んにしたこと、また、製造に当たっては組合員以外の家庭から臨時雇用し、鰐産業を村民総参加の産業に育て上げたことである。このように村おこしは、より多くの者が課題に対して常に共通の理解・認識、いわゆる共通士俵を形成するといふのが肝要であるとされる。

本村は県都那覇市に近く、自然

が残っている、珊瑚礁の発達により海中景観が素晴らしい等々で、ダイビングの客を中心に観光産業が発展し、基幹産業となっている。この基幹産業・観光産業を持続的に発展させ、活力のある村を実現していくため、

観光産業に農・水産業をリンクさせ、産業の複合化、総合化を図り、村民総参加の仕組みを作るべく、「エコロジーアイランド」の創造に向けて取り組みを開始したところである。

「エコロジーアイランド」は、まず、自然環境はもとより、産業教育・福祉文化の向上、並びに集落景観の形成等、総合的な環境の維持・増進を図るために、環境にやさしく、村づくりを推進し、誰もが住みたいたい村、行ってみたい村を創造することであり、その実現に向けて、村民の英知を結集し、地域特性を活かした地域づくりを徹底するのであると考えている。地域特性を活用した最近の事例としては、昨年の各屋敷にハイヤの一本植え付け運動が上げられ、それはハイヤの植え付けに際してハイヤの発育を妨げるウイルスを村民の総意により撲滅したことと各家庭から排出する生活垃圾をEM技術により肥料化し、栽培に使用したことである。特に、ウイルスの撲滅作戦はウイルスを媒介する昆虫類の飛来距離が一キロメートル以内という習性を利用した離島特性を活用したものである。しかしながら、地域特性は負の特性もある。例えば、農地が狭く、点在し縦まりがなってと言う場

合等には、その整備に際しては、規制緩和の進む中においても、なお制度のハーフドルを越えきれないこともあるので、活力ある村づくりは、先達の心意気を知る皆さんとの奮闘を期待する。

我れ先に発表が行われる中で、往時、の鰐漁の全行程の映写を準備してきた者「」れかの作目はハーフに限ると山羊汁の薬味に自家製ハーブを提供する者等、山羊汁を肴にアルパールメーターの高まる中、「エコロジー・アイランド」創造への確かな足音を聴き、今年は二十一世紀への強固な架け橋を築き上げる年とした。



座間味村長

仲村 三雄

## エコロジー・アイランドへの挑戦 ～村おこしについて～

